令 和 7 年 度

事　業　計　画　書

公益財団法人 島岡教育基金

昨年は、能登半島地震や、日向灘での地震、東北地方での豪雨など、多くの災害が発生した年でした。また、マイナス金利の解除や円安、衆議院での与党過半数割れなど、経済・政治の面でも大きな変化がありました。海外では世界各国で自然災害が相次ぎ、70 か国以上で選挙が行われるなど、変化の激しい年でもありました。また、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東情勢の緊迫化により、世界経済の先行きは不透明感が増しています。

教育に関しては、ICT の普及と活用がさらに進展する見込みです。特に、GIGA スクール構想に基づくデバイスの配布が進み、デジタル教科書やオンライン学習プラットフォームの利用が一般化し、生徒一人ひとりの学びのスタイルに合わせた個別最適な学びが推進されることが期待されます。また、AI の技術が教育に統合され、学習データの分析や個別学習支援が強化されることで、教育内容の効果的なカスタマイズが進むことも期待されます。

さて、当基金は今年度も子どもたちの豊かな心の育成に向け、日々努力されている教育現場に対して、微力ではありますが下記のとおり活動を継続いたして参ります。

低金利状況が続く中、当基金の運営は従来以上の厳しさを強いられていますが、関係各方面には一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

１）　教育研究助成事業 ―― 青少年の“豊かな心を育てる”には、教育に携わる方々のたゆまぬ研究努力に懸かっております。本年度も３グループを対象に各２０万円を助成いたします。

２）　職業教育援助事業 ―― 優れた技術者・技能者育成と工業教育向上のため、本年度も５校を対象に各１０万円を助成いたします。

３）　家庭教育講演会援助 ―― 青少年の人間性とか倫理などの徳育に関しては、学校と子どもの間にある家庭での教育が欠かせません。従って今年度も継続して講演会開催への支援を行います。

４）　家庭教育用冊子の発行 ―― 本年も教育研究実践例第２４集の発行を予定しております。

５）　各種団体援助 ―― 各小・中学校長会に対し、本年も昨年と同額を予定しております。

以上

資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（１）資金調達の見込みについて　　当期中に資金調達の予定はありません。

（２）設備投資の見込みについて　　当期中に重要な設備投資（除却または売却を含む。）の予定はありません。

以　上

令 和 7 年 度

収支予算書内訳表（損益計算ベース）

令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（円）

科　　目	公益目的事業会計	法人会計	合　計
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
１．経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	102,750	47,250	150,000
基本財産受取配当金	1,452,200	667,800	2,120,000
②受取寄付金	0	0	0
③雑収益			
受取利息		3,000	3,000
投資有価証券評価益	0	0	0
④特定費用準備金資金取崩額	1,800,000	0	1,800,000
経常収益計	3,354,950	718,050	4,073,000
(2) 経常費用			
①事業費			
教育研究助成	600,000	－	600,000
職業教育援助	500,000	－	500,000
家庭教育講演会援助	2,000,000	－	2,000,000
家庭教育用冊子発行	150,000	－	150,000
各種団体援助	120,000	－	120,000
②管理費			
会議費	－	170,000	170,000
役員報酬	－	180,000	180,000
旅費交通費	－	5,000	5,000
通信運搬費	－	30,000	30,000
什器備品費	－	0	0
消耗品費	－	0	0
印刷製本費	－	350,000	350,000
雑費	－	50,000	50,000
経常費用計	3,370,000	785,000	4,155,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 15,050	△ 66,950	△ 82,000
投資有価証券評価損益	0	0	0
当期経常増減額	△ 15,050	△ 66,950	△ 82,000
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
投資有価証券評価益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 15,050	△ 66,950	△ 82,000
一般正味財産期首残高	－	－	84,078,269
一般正味財産期末残高	－	－	83,996,269
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	－	－	21,200,000
指定正味財産期末残高	－	－	21,200,000
Ⅲ　正味財産期末残高	－	－	105,196,269